検受番号	

※

1※

2※

3※

※

課題１　次の文章を読んで、（１）から（４）に答えましょう。

科学は、病気を治す薬を発明（ア）したり絶滅危惧種（*1ぜつめつきぐしゅ）を守ったり、世界そのものを変える力をもちます。一方、文学は、世界のとらえ方を変えるものです。

A　静寂（せいじゃく）は爆音（ばくおん）である花吹雪（はなふぶき）　又吉直樹（またよしなおき）　『芸人と俳人（*2はいじん）』

芥川賞（*3あくたがわしょう）作家の芸人・又吉直樹さんの俳句（はいく）です（集英社文庫所収（*4しょしゅう））。音もなく桜の花が散る、美しい光景です。しかし又吉さんは、その静寂を「爆音」だととらえました。静寂が正反対の爆音のように感じられるほど、圧倒的（あっとうてき）な孤独（こどく）の中にいるのでしょうか。散る桜も狂気（きょうき）を帯びているようで、なおさら目が離（はな）せません。私はこの句を知ってから、静かな桜を見るたび、聞こえない爆音を聞きます。

B　もりあげてやまいうれしきいちご哉（*5かな）　正岡子規（*6まさおかしき）　『子規全集』

明治二十八年、病で生死の境をさまよい一命をとりとめた子規は、神戸の病院に入院していました。後輩（こうはい）の高浜虚子（たかはまきょし）と河東碧梧桐（かわひがしへきごとう）は、看病（かんびょう）のために毎日、近くの農園から苺（いちご）を採ってきます。くだものが大好きな子規は、山盛（やまも）りの苺を用意してもらえるのも病気になったおかげだ、病気は嬉（うれ）しいものだなあ、と詠（よ）みました。ふつう、病気は嫌（いや）なものです。でも、子規はあえて、発想（イ）を変えました。言葉の力で、逆境（*7ぎゃくきょう）も肯定（こうてい）してみせたのです。

科学で解決できないことを前にしたとき、私の世界を言葉で変えるのが、俳句の力です。その力は、俳句を受け取った人の世界をも変えうるのです。

「俳」という字のつくりである「非」には、「そむく。逆の方へ向く」（『新漢語林（*8しんかんごりん）　第二版』）という意味があります。あえて常識にそむき、違（ちが）う考え方を採用してみることで、逆境をのりこえる力が生まれ、自分とは異（こと）なる他者への理解も深まります。

「こう考えてみたらどうだろう」と思考に角度をつけ、マイナスをプラスに変えてみましょう。俳句には、現代を生き抜（ぬ）くヒントがあります。過去の俳人たちは、言葉の想像力で、答えの出ない困難（こんなん）を乗りこえてきました。みなさんもまた、解決できない問題の山積（*9さんせき）する、分断と混乱（こんらん）の時代へ漕（こ）ぎ出してゆくことになります。そのとき、俳句という詩の考え方を装備（そうび）に加えておくことで、自分らしさを見失わず生きてゆけるかもしれません。

C　俳諧（はいかい）や木の実（み）*10くれさうな人を友　正岡子規　『子規全集』

木の実はたいした役に立ちませんが、心を灯（とも）します。受け取ったとき、ふと笑みがこぼれます。「俳諧（ウ）」＝俳句とは、誰（だれ）かと木の実を差し出し合い、友だちのように語り合える、あたたかい詩です。言葉を通して、他者と心を通わせる経験は、きっとみなさんの財産になります。

私たちはふつう、明日もあさっても、今日と同じ日常が続くと思っています。でも、そんな保証（そ）はありません。それに、俳句をはじめると、今日と同じ日は二度と来ないことに気づきます。朝焼けに染まる雲のかたち、朝ごはんのウインナーの焦（こ）げ、「おはよう」とあくびする友だちの寝（ね）ぐせ、教室を吹（ふ）き抜けてゆく春風のやわらかさ。それらはすべて、今、この瞬間（しゅんかん）にしか存在しないものです。

今日がもし、世界最後の日だったら、なんでもない日々の風景も、一度っきりの今として、輝（かがや）きだすでしょう。そのかけがえのない世界のかけらに心ときめくとき、あなたはもう、りっぱな俳人です。

（神野紗希（こうのさき）著　『俳句部、はじめました――さくら咲く一度っきりの今を詠む』から）

＊1絶滅危惧種…地球上から姿を消すことが心配されている生物。　＊2俳人…俳句を作る人。
＊3芥川賞…新人に与えられる文学賞。　＊4所収…その本にとり入れられていること。　＊5哉…感動の気持ちを表す言葉。
＊6正岡子規…明治時代に俳人や歌人として活やくした人。　＊7肯定…そうだとみとめること。　＊8新漢語林…漢字辞典の一つ。
＊9山積…山のようにたくさんたまること。　＊10くれさうな…「くれそうな」の昔のかなづかい。

（１）　――ア「発明」、――イ「発想」のように、「発」を使った言葉はたくさんあります。「発」を使って、「発明」「発想」以外で、解答らんに当てはまるように漢字二字の言葉を作りましょう。ただし、「一」や「百」などの漢数字を使ってはいけません。また、同じ漢字も二回以上使ってはいけません。

発　　発　　発　　発

受検番号	

※　※　※　※

（２）　〓ウの漢字について興味をもち、漢字辞典で調べることにしました。漢字辞典で調べるときは、「部首さく引」「総画さく引」「音訓さく引」の三つのさく引を利用することができますが、あなたはどのさく引を使って調べますか。三つのさく引の中から二つを選び、それぞれについて調べ方を具体的に書きましょう。

諧	
（　　）さく引	（　　）さく引

（３）　――「文学は、世界のとらえ方を変えるものです」とありますが、又吉直樹はＡの俳句において、正岡子規はＢの俳句において、何をどのようにとらえていると筆者は述べていますか。それぞれについて説明しましょう。

Ａ	Ｂ

（４）　筆者は、俳句とはどのようなものだと述べていますか。Ａ・Ｂ・Ｃの三つの俳句について書かれていることをふまえ、「俳句とは～ものである。」という形に合わせて、八十字以内でまとめて書きましょう。（　、や　。や「　」なども一字に数えます。）

俳句とは

80 字

ものである。

※　２※

課題２　これまでの体験の中で、あなたが勇気をもらったできごとや言葉はどのようなものですか。その時の体験にふれながら、その後の生活にどのように生かしているか、または、生かしていこうとしているかもふくめ、具体的に二百字以内で書きましょう。（　、や　。や「　」なども一字に数えます。段落分けはしなくてよろしい。一マス目から書き始めましょう。）

200 字　100 字

（Ⅱ－３）

受検番号	

３※

課題３　太郎さんと花子さんは，日本の農業と気候について調べ，先生を交えて話し合いました。あとの会話文を読んで，（１）～（３）に答えましょう。

太郎：二毛作という言葉を聞いたので，どのようなものかインターネットで調べて**資料１**にまとめました。二毛作とは，**資料１**のように，１年間に米と小麦などの異なる２種類の作物を同じ耕地でさいばいすることです。

先生：それでは，二毛作はどのような地域でさかんに行われていると考えますか。

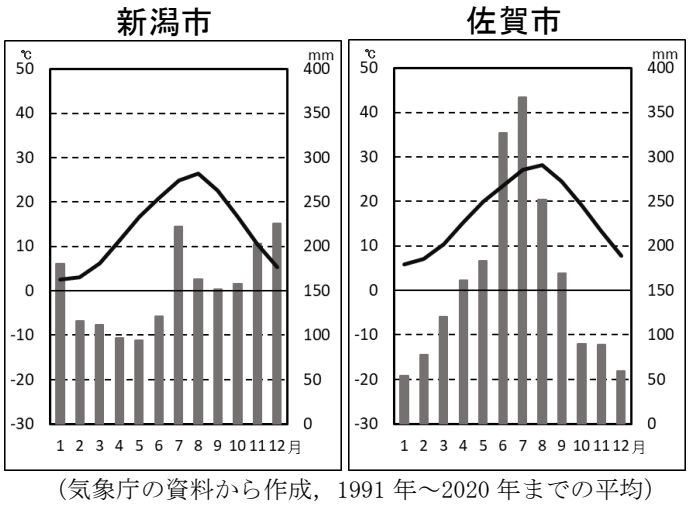
花子：二毛作のさかんな地域は，その地域の気候と大きな関係があると考えました。そこで，**資料２**の２つの都市の気温と降水量を比べてみました。

太郎：この２つの都市では，どちらで二毛作がさかんに行われているのだろう。

資料１　二毛作の１年間の作つけスケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
内容	小麦のさいばい →				小麦の収かく	田植え	← 米のさいばい →			いねかり	小麦の種まき	←

資料２　新潟市と佐賀市の月別平均気温と月別平均降水量



（気象庁の資料から作成，1991 年～2020 年までの平均）

（１）　新潟市と佐賀市では，どちらの都市で二毛作がさかんに行われていると考えますか。資料１，資料２をもとに２つの都市の気候を比かくしながら，あなたの考えを書きましょう。

※

太郎：農業といえば，日本では弥生時代を中心に米づくりが始まったと学習しました。

花子：狩りや採集が中心だった生活が，米づくりが始まったことで大きく変わったようですね。

太郎：どのような変化があったのかを**資料３**にまとめました。**資料３**のようにお墓や矢じりに変化があったことがわかりました。

先生：なぜ，お墓や矢じりはこのように変化したのでしょうか。その理由を考えてみましょう。

資料３

	狩りや採集が中心の時代	米づくりが中心の時代
お墓	・住居の周りに小さいお墓が複数作られた	・小さなお墓に加えて，大きなお墓が作られた ・大きなお墓の周りに石やつぼがかざられた
矢じり	・大きさ：１～３cm ほど ・材料：石 ・形状：うすくて軽い ・特ちょう：遠くまで速く飛ぶ	・大きさ：１～６cmほど ・材料：石や鉄などの金属 ・形状：厚くて重い ・特ちょう：深くささる

（あいち朝日遺跡ミュージアム資料，愛知県埋蔵文化センター紀要などから作成）

（２）　米づくりが中心になった時代に，お墓と矢じりに資料３のような変化がみられるのはなぜですか。変化した理由として考えられることを，それぞれについて米づくりと関連付けて書きましょう。

※

お墓	
矢じり	

※

先生：日本で米づくりがさかんになったのは，日本の気候と米の育つ条件が合っていたからですね。このように日本の気候や自然かん境は人々にめぐみをもたらす一方で，自然災害を起こし，ひ害をもたらすこともありますね。

太郎：学校では，地域の防災意識を高める取り組みを学習しました。

花子：災害に備えて，準備や対策をしておくことが大切ですね。私が住む地域では，今度，ひ難訓練をする予定です。ひ難訓練をしてみると，実際のひ難の時に困ることなどがわかるかもしれません。

（３）　花子さんは地域のひ難訓練に参加して，「ひ難行動要支えん者」（ひ難時にだれかの助けを必要とする人）への支えんが課題であることを知りました。「ひ難行動要支えん者」がどのような人か具体例を１つあげ，その人がどのようなことに困るか，また，その人に対して地域の人たちはどのような支えんができるか，あなたの考えを書きましょう。

※